

## キャリア教育の視点を授業実践に

### 活かすための取組

～教育活動全体を通じた系統的なキャリア教育の充実をめざして～

千葉県立習志野特別支援学校

電話 047-470-7750

FAX 047-470-7752



### 研究のポイント

ライフキャリアの視点から各教科の授業実践を PDCA サイクルで取り組んだ。また、児童の自立や社会参加、生活の質の向上に向けて、就学前施設や小学部卒業後の学校等とキャリア教育の視点を通じた情報共有、情報交換を行い、地域・家庭との連携について取り組んだ。

#### ■学校の概要

<https://cms2.chiba-c.ed.jp/narashino-sh/>

本校は平成27年に開校した、習志野市を通学区とする、知的障害のある児童を対象とした小学部単独の特別支援学校である。同じ敷地内にある習志野市立袖ヶ浦東小学校と、年間を通して交流及び共同学習を行っている。令和5年度の全校児童数は62名である（12月1日現在）。「自ら学び、心豊かに、たくましく生活する児童の育成」を学校目標に掲げ、「たのしく、なかよく、げんきよく」を合言葉に教育活動に取り組んでいる。

#### ■研究課題

就学前、小学部、中学部、高等部における切れ目ない連続した学びの実現に向けた小学部段階でのキャリア教育の充実について実践研究を行う。

#### ■研究の目的と方法

【目的1】児童の将来を見据えたキャリア教育の実践について、学校全体で取り組むことができるよう教育課程や教育内容を設定していく。

【方 法】①キャリア教育に関する全校研究会の実施

②キャリア教育に関する協議会の実施

・キャリア教育の観点で各教科の目標を捉える

・育てたい4つの力を意識した実践（授業研究、事例研究）

③キャリア・パスポートの活用についての検討

【目的2】児童一人一人のライフステージに応じたキャリア教育が切れ目なく展開できるように、就学前施設や小学部卒業後の学校、就労に関する施設及び地域や家庭との連携を深める。

【方 法】①就学前施設、高等部卒業後の施設との連携（施設見学、体験研修、情報交換会、授業公開）

②小学部卒業後の進路（千葉県立八千代特別支援学校）との交流学習

③家庭との連携（紙面による情報発信、研修会の開催）

## ■研究概要

### <目的1>

#### 【成果】

- キャリア教育を考えるにあたり、ライフキャリア（就労に限定せず、生涯の全ての場面で必要とされるキャリア）の視点で捉えることの重要性について、教員間で共通理解が図られた。
- キャリア教育の視点を取り入れて授業づくりに取り組もうという教員の意識を高い水準で維持することができた。
- 学習指導要領で示される各教科の目標には、キャリア教育の観点から育てたい4つの力が満遍なく含まれていることが分かった。
- 育てたい4つの力を意識して各教科の授業実践に取り組んだことで、児童が主体的に学習活動に取り組んだり、意欲的に授業に参加したりする姿が見られた。

#### 【課題・今後の可能性】

研究で得た成果をよりよい形で児童に還元していくために、何をどのように取り組んでいくか検討していく必要がある。

### <目的2>

#### 【成果】

- 就学前施設との連携では、相互の療育目標や教育目標において同じ方向性があり、活動内容や環境面においても多くの共通点があった。そして、同様の内容の活動でも、本校では、児童がより「自分で、自分から」取り組むための支援の在り方を考えていく必要があることが明らかになった。
- 千葉県立八千代特別支援学校との交流学习では、「人と関わる力」をはじめ、「活動に取り組む楽しむ力」につながる学習となった。
- 就労施設との連携では、ライフキャリアの視点での育てたい4つの力とその具体的な観点は、将来働く時に必要とされる力と重なる点が多いことが分かった。
- 家庭との連携では、保護者のキャリア教育に関する理解が深まった。

#### 【課題・今後の可能性】

小学部卒業後の進路先や就学前の施設など、縦のつながりを大事にしながら、家庭や地域など横のつながりを広げ、連携・協働して児童を育てていく体制を整えていく必要がある。

## 関連資料

- ・『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』
- ・『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』
- ・『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』
- ・『知的障害教育発、キャリア教育』 名古屋恒彦【東洋館出版社】